

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル 有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家(1号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2277101883-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には茶畑が広がり、ホーム敷地内の菜園では季節の野菜が収穫され、四季折々の草花を身近に楽しむことができる。
平屋建てのホームでは、山小屋風の吹き抜けのあるリビングに集い、ボランティアの催事やカラオケ・習字のサークルは自由参加となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長屋風な趣を残しつつ1号館から3号館まで互いが顔を合わせて生活できるよう工夫され、敷地内に設えたひまわり畑は車いすの道も通され、至るところに配慮がみえます。シニアクラブ悠悠の会や民生委員を通じて頻回なボランティア訪問が叶い、クラブの皆さんとは一緒に庭でグランドゴルフに興じることもあり、地域資源の往来が豊かなため「いつイベントをやるのか」「呼んでほしい」という声が家族からも挙がるほどです。週1回のカンファレンスで解決に至らない場合は3ユニット全職員が集う毎月の職員会議にかけ総意を以てあたることが慣行され、ユニット単位の良さを発揮しつつも三位一体の結束力に秀でていきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所に掲示し、職員全員が把握し、理念を共有し実践に取り組んでいる。また、職員会議にて、一人ひとりの実践への取り組みについて話し合っている。	理念を易しく解いた「一緒に 楽しく のんびりと」が掲示され、3ユニット全職員が集う職員会議にて話し合うことが繰り返されています。訴えが絶えなかった2号館の利用者が1号館のマッサージ機を使用することで安定したとの例も、議題に挙がり総意を以てあつたものです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、凹見板を回してもらったり、行事に参加させていただいている。また、運営推進会議に出席させていただいている。事業所の行事には悠悠の会(地域)の方に参加していただいております。	シニアクラブ悠悠会や民生委員の交流ではハーマニカやマジックのボランティア訪問が叶い、クラブの皆さんとは一葉の家の庭でグランドゴルフに興じることもあります。根洗神社秋の大祭案内も届き、移動図書館や犬の散歩での立ち寄りや猫の訪問もあり、往来が豊かです。	交流が盛んですが幼児・生徒との出会いは少ないため、異世代交流も増えていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の施設学習の受け入れや、悠悠の会・ボランティア等の協力により交流を持ち理解や支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施しており、事業所の取り組み状況や報告・意見交換を行っている。また、職員会議にて話し合いサービス向上に活かしている。	行政や地域からの出席者を得て、日頃の様子をデジタル映像で鑑賞してもらう時間も設定しています。敷地で採れた梅で作ったジュースを勧めたのや和気藹々のなかでは法改正の質問も気軽にでき、また「居間での過ごし方」を協議した延長にちぎり絵に加わってもらったこともあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、介護相談員が月1回来設されており協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センター、市役所双方から生活困窮者や他の施設では受け入れ難い症状の入居相談が入り、実際受け入れた例もあります。そのため長寿保険課だけでなく社会福祉課との付き合いも増え、市からの問い合わせ電話は月に2~3件入っています。	浜松市から認知症サポーター養成講座開催の提案をされているとのことですので、ぜひ実現を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないケアについて学んでおり、見守りを重視したケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を備えて職員会議で学ぶ時間を設けるとともに、北区主催の事業者情報交換会においても広い視野での事例検討がおこなわれています。職員の口からついでてしまう「やって」には管理者が「やってくださいね」と言い直しを都度注意して是正を進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修や講習会にて学び、実践に活かして虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学んでいる。ご家族より、制度利用の要望があれば、話し合いを持ち、準備から申請までの支援をしている。また、現在、後見制度を利用している利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約文書は必ず説明を行い、不安や疑問点・生活に対する要求等を聞き理解・納得された上で契約できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも話し合いを持っている。また、苦情や意見箱を設けており、利用者や家族から意見や要望が聞かれた場合職員会議等で話し合いを持ち、改善できるように取り組んでいる。	「面会で届くことは職員から管理者にあげられ、事の大きさによっては苦情・相談内容記録票に記載する」、解決への仕組みが確立しています。例えば「友人が訪れ、菓子やバナナを渡して本人が食べてしまい糖尿病の悪化が心配」との声には職員が間に入り状況を改善させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三者面談や個人面談にて、職員一人ひとりの意見や要望を聞き、改善できるように話し合いを持っている。	上位者との面談は1対1だけでなく、必要に応じて2対1としていかに吸い上げるかが図られるなか、「玄関先のベンチを増やしてほしい」との利用者目線のものだけでなく、消毒の徹底につながった感染症対策への進言もみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働き続けられるように個々に応じた勤務調整や、研修への参加、勉強会を行い向上心がもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修への参加を促したり、定期的な事業所の研修を行っており、勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・地域情報交流会の参加を通して交流を計り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に思っていることや要望に耳を傾け、納得できるように本人と話し合いを持ち、安心して過ごすことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを持ち、困っていることや要望を聞き、希望は出来るだけ沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から困っていることや、必要としている支援を把握し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における、掃除・洗濯・食事の準備等、できる事は一緒に行い、共に暮らしていく関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の気持ちを十分理解し、生活状況の報告を行い、話し合いを持ち、関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの方に来ていただいたり、一緒に外出することもある。また、希望により電話支援をしている。	息子夫婦と氷川きよしコンサートに行くのが定例行事となっている利用者は介護度5と聞き、驚きました。毎晩訪れ、眠りにつくまで寄り添う家族もいます。遠方でなかなか面会ができない家族が電話を入れてくれたときは、耳の遠い本人のために職員が中継ぎを担っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流出来るように、イベント等の企画、ゲームやカラオケに参加を促したり、会話の時間を作ったりと、関わりが持てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要により電話・訪問・面会に行ったり、相談はいつでも受けるよう支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を会話の中から、把握につとめ、困難な場合は、表情や行動から把握するようにしている。	浴槽や居間、居室と、寛げる空間は人それぞれなので、その人がリラックスできる時間や場所を探して聴いています。聴き取ったことや行動から察知したことは申し送りノートに記載することで共有できていますが、大半は話を聴くことで落ち着いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦・暮らし方等の情報収集を行い、個人ファイルや御本人の会話の中から、どのような生活だったのか情報を聞き、カンファレンスにて情報交換を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・連絡ノート・業務日誌等に記入し、週1回のカンファレンスにて話し合いを持ち、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの暮らし・課題・要望・ケアのあり方等を本人・家族と話し合い、カンファレンスにて検討し介護計画を作成している。	計画作成担当者は各号館に1名ずつ配置されています。毎日「介護記録」として早番、日勤、遅番と全員が評価表に記入し、ケアプランの短期目標が行えているかが「○」「×」で一目瞭然です。月1回のモニタリングを実践し、また異変には速やかにプランを書き換えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の担当者がおり、日々の様子を職員間で情報交換し、記録に記入している。また、カンファレンスで話し合い、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの変化や状況の把握と、その時々ニーズに対応して、本人が居心地よく生活できるように柔軟な支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や地域のボランティアと連絡を取り合い、生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診支援をしている方もいる。また、納得が得られた方は協力医療機関に受診や往診支援をしており、受診内容は申し送りノートに記入している。	かかりつけ医を継続している人は3割程で、協力医は職員が通院同行しています。医療費のことから「かかりつけ医に戻したい」という家族の意向を受入れたところ、受診の付き添いで過ごす時間が増え、「かえってよかった」というケースもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、24時間体制で連絡がとれ、気づいたことや入居者の体調の変化など、随時、連絡・報告・相談ができ、適切な対応が取れる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、今までの情報を医療機関に説明し、情報交換を行い、早期に退院できるように連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族から意向を聞き、主治医と相談をし、必要な関係者と話し合いを持ち、方針を決め支援に取り組んでいる。	看護師資格をもつホーム長が日常的に専門的なやりとりがかかりつけ医とできていることが覗えますが、重度化に際しては移設先を紹介しており現在は看取りをおこなっていません。医療的措置が24時間必要な場合には無理であると予め家族に伝えてあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが目の届くところにあり、すぐ確認できるようになっている。また、定期的な研修や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルがあり、防災計画を立て、日中や夜間の避難訓練を行っており、緊急連絡網の伝達訓練や応急処置の訓練も行っている。また、運営推進会議でも話し合っており、消防署の方にも協力して頂いている。	防災訓練は法令で定めた以上の回数を行っており、運営推進会議に兼ねた折には非常用食品を試食して「いい勉強になった」との感想をもらっています。衣服を包帯代わりとしたり、竹竿で担架をつくることも訓練後に講習して応急手当の方法も順次学んでいます。備蓄は3日分あります。	衣服を包帯代わりとすることは有事に役立つことのため、地域を巻き込んだ講習会に発展することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やカンファレンスでも話し合い、一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーが守られるように意識向上に努めている。また、言動に気付きがあれば、その場で注意しあっている。	身体拘束排除と同じく大切なこととして職員会議を学習機会とし、例えば夜間帯で使うポータブルトイレを目にした本人以外の人が「あれ何？」と不信に思ってしまったケースでは「日中は見えないよう置き場所を替えた」といったことが日々おこなわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを聞き、少しでも多く会話を持つように支援し、毎日を楽しみ暮らすことが出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがどのような生活を望んでいるのかを把握し、趣味や希望に沿って、出来るだけ生活を楽しめるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服や、その日の気分により、自分で選んで着ることが出来るように支援している。また、1ヶ月に1回、訪問美容師さんが来設され、希望に応じカットやカラーをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る準備や片付けは、一緒に行い、盛り付けを考え、楽しんでもらえるように支援している。また、事業所の畑と一緒にとりに行き、季節感が味わえるように支援している。	平日は調理品が配達され、日曜日は食材のみ届くため職員がメニューに即して調理しています。嗜好調査で「パンが食べたい」という声が多かったため日曜日の昼食にサンドウィッチで反映させたこともあります。おやつは手作りとし販の菓子を交互に提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量をチェック表に記入し、一人ひとりの状態や必要により、食事形態の変更やロミ剤を使用し、硬さの調整をしている。また、不足時には栄養補助食品にて補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、個々に応じた声かけ、誘導を行い、うがいや歯磨き、入れ歯の洗浄を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状態を把握し、一人ひとりに応じたパターンで声かけや誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	大半の利用者がリハビリパンツのためトイレ誘導がおこなわれ、自立が促された結果布パンツに変更する人もいます。食事では水分をしっかり摂ることを職員に奨励し、夜間にもお茶を入れたペットボトルを居室に持ち込むことを支援しての便秘対策がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の把握と、水分補給に注意し、体を動かす機会を作り対応している。また、朝はトイレに座る習慣をつけるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、本人の状況により変更している。また、一人ひとりの希望により、一人で入りたい方は一人で入ることができるように支援を行っている。	一人当たり週3回ほどの頻度で使う浴槽は複数で入れるように大きめにつくられ、女性は仲の良い人同士で浸かっています。湯は流したままで浴室の温度を一定に保つことにもつながっています。トイレの向かいに脱衣室が配されているため、万が一排泄時に汚れがあっても対応がスムーズです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は声かけにて活動を促し、夜間眠れるように支援している。また、状況に応じて休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の使用と、変更時は申し送りノートで、服薬についての理解が出来るように努め、症状の観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、声かけを行い、役割を持っていただいている。また、イベント等で気分転換や、楽しみの場となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き、散歩や買い物が出来るように支援している。また、家族と連絡を取り合い、外食やドライブ・外出支援をしている。	行事と回転寿司で年6回外出イベントが計画運用され、花川の薔薇園、小國神社、紅葉狩り、桜見物を兼ねて館山寺のニュー泉館に向き食事をするとコースが定着しています。各ユニットから3~4名、計13名での小グループが常ですが、60人乗りのバスを借りることもあります。	家族アンケートでは他の項目と比べ外出についての評価が低くなっています。年6回のイベント的な外出は継続実施されていますので、個別の日常的な外出支援が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持して買い物が出来る方には、職員が付き添い、希望のものが買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人やご家族の希望により、手紙のやり取りや電話支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や壁には行事の写真・習字等を掲示し、その季節に応じた花を飾り、温度調節を行い居心地よく過ごすことが出来るように支援している。また、夏には居間の窓にレースのグリーンカーテンを作り季節感を味わえるようにしている。	日当たりが良く、整理整頓により広さが感じられます。習字が得意な利用者の作品を掲示しての有効感を高める工夫もみられ、また「家康くん」をはじめ折々の貼り絵が掲示され、時節を味わうことができています。席替えを柔軟におこない、和合するよう気配りしていることを確認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビとソファがあり、テレビを見たり新聞を読んだり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や、思い出のある物を持ち込み、居心地よく生活できるように努めている。	エアコン、カーテン、洗面所、ベッド、カーテン式クローゼットが備えられほぼ生活用品は揃っていますが、壁には孫や伴侶の写真が貼られ、馴染みであろうことが伝わる座りやすそうな椅子が置かれており、その人その人の暮らしぶりが受け止められました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態により、居室のドアに目印をつけたり、テーブルの座席の位置を考え、出来るだけ安全な生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル 有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家(2号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には茶畑が広がり、ホーム敷地内の菜園では季節の野菜が収穫され、四季折々の草花を身近に楽しむことができる。
平屋建てのホームでは、山小屋風の吹き抜けのあるリビングに集い、ボランティアの催事やカラオケ・習字のサークルは自由参加となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長屋風な趣を残しつつ1号館から3号館まで互いが顔を合わせて生活できるよう工夫され、敷地内に設えたひまわり畑は車いすの道も通され、至るところに配慮がみえます。シニアクラブ悠悠の会や民生委員を通じて頻回なボランティア訪問が叶い、クラブの皆さんとは一緒に庭でグランドゴルフに興じることもあり、地域資源の往来が豊かなため「いつイベントをやるのか」「呼んでほしい」という声が家族からも挙がるほどです。週1回のカンファレンスで解決に至らない場合は3ユニット全職員が集う毎月の職員会議にかけ総意を以てあたることが慣行され、ユニット単位の良さを発揮しつつも三位一体の結束力に秀でていきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は朝礼や事務所に掲示し、共有や実践に取り組んでいる。また、職員会議にて、一人ひとりの実践への取り組みについて話し合っている。	理念を易しく解いた「一緒に 楽しく のんびりと」が掲示され、3ユニット全職員が集う職員会議にて話し合うことが繰り返されています。訴えが絶えなかった2号館の利用者が1号館のマッサージ機を使用することで安定したとの例も、議題に挙がり総意を以てあつたものです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回してもらったり、地域の行事に参加してもらっている。また、事業所の行事には、悠悠会(シニアクラブ)の方に参加して頂いたり交流を持っている。	シニアクラブ悠悠会や民生委員の交流ではハーモニカやマジックのボランティア訪問が叶い、クラブの皆さんとは一葉の家の庭でグランドゴルフに興じることもあります。根洗神社秋の大祭案内も届き、移動図書館や犬の散歩での立ち寄りや猫の訪問もあり、往来が豊かです。	交流が盛んですが幼児・生徒との出会いは少ないため、異世代交流も増えていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受け入れや、悠悠会、ボランティアの方々に協力して頂き、交流を持ち理解や支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施しており、事業所の取り組み状況や報告・意見交換を行っている。また、職員会議にて話し合いサービス向上に活かしている。	行政や地域からの出席者を得て、日頃の様子をデジタル映像で鑑賞してもらう時間も設定しています。敷地で採れた梅で作ったジュースを勧めたのや和気藹々のなかでは法改正の質問も気軽にでき、また「居間での過ごし方」を協議した延長にちぎり絵に加わってもらったこともあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、介護相談員が月1回来設されており協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センター、市役所双方から生活困窮者や他の施設では受け入れ難い症状の入居相談が入り、実際受け入れた例もあります。そのため長寿保険課だけでなく社会福祉課との付き合いも増え、市からの問い合わせ電話は月に2~3件入っています。	浜松市から認知症サポーター養成講座開催の提案をされているとのことですので、ぜひ実現を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないケアについて学んでおり、見守りを重視したケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を備えて職員会議で学ぶ時間を設けるとともに、北区主催の事業者情報交換会においても広い視野での事例検討がおこなわれています。職員の口からついできてしまう「やって」には管理者が「やってくださいね」と言い直しを都度注意して是正を進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修や講習会にて学び、実践に活かして虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学んでいる。ご家族より、制度利用の要望があれば、話し合いを持ち、準備から申請までの支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約文書は必ず説明を行い、不安や疑問点・生活に対する要求等を聞き理解・納得された上で契約できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも話し合いを持っている。また、苦情や意見箱を設けており、利用者や家族から意見や要望が聞かれた場合職員会議等で話し合いを持ち、改善できるように取り組んでいる。	「面会で届くことは職員から管理者にあげられ、事の大きさによっては苦情・相談内容記録票に記載する」、解決への仕組みが確立しています。例えば「友人が訪れ、菓子やバナナを渡して本人が食べてしまい糖尿病の悪化が心配」との声には職員が間に入り状況を改善させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三者面談や個人面談にて、職員一人ひとりの意見や要望を聞き、改善できるように話し合いを持っている。	上位者との面談は1対1だけでなく、必要に応じて2対1としていかに吸い上げるかが図られるなか、「玄関先のベンチを増やしてほしい」との利用者目線のものだけでなく、消毒の徹底につながった感染症対策への進言もみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働き続けられるように個々に応じた勤務調整や、研修への参加、勉強会を行い向上心がもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修への参加を促したり、定期的な事業所の研修を行っており、勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・地域情報交流会の参加を通して交流を計り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に思っていることや要望に耳を傾け、納得できるように本人と話し合いを持ち、安心して過ごすことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを持ち、困っていることや要望を聞き、希望は出来るだけ沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から困っていることや、必要としている支援を把握し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における、掃除・洗濯・食事の準備等、できる事は一緒に行っている。本人の思いや希望など、何でも言えるような共に暮らしていく関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の気持ちを十分理解し、生活状況の報告を行い、話し合いを持ち、関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や宗教の方の協力にて、馴染みの方に来ていただいたり、一緒に外出することもある。また、希望や本人の状態にあわせ電話支援をしている。	毎週日曜日の礼拝に教会の送迎付きで出かける人もいて、そのご縁から大量のキャベツが届けられたこともあります。日蓮宗を信仰している利用者は、原島町の寺院に毎月参拝していて、年2回富士山にある本尊まで足を延ばしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流出来るように、イベント等の企画、ゲームやカラオケに参加を促したり、会話の時間を作ったりしている。日常生活における掃除や洗濯を一緒に行い、関わりが持てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要により電話・訪問・面会に行ったり、相談はいつでも受けるよう支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を、言いやすい環境をつくり訴えや普段の会話の中から把握につとめ、困難な場合は、表情や行動から把握するようにしている。	浴槽や居間、居室と、寛げる空間は人それぞれなので、その人がリラックスできる時間や場所を探して聴いています。聴き取ったことや行動から察知したことは申し送りノートに記載することで共有できていますが、大半は話を聴くことで落ち着いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦・暮らし方等の情報収集を行い、個人ファイルや御本人の会話の中から、どの様な生活だったのか情報を聞き、情報交換を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いを言いやすい環境作りに努め、申し送り・連絡ノート・業務日誌等に記入し、週1回のカンファレンスにて話し合いを持ち、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの暮らし・課題・要望・ケアのあり方等を本人・家族と話し合い、カンファレンスにて検討し介護計画を作成している。	計画作成担当者は各号館に1名ずつ配置されています。毎日「介護記録」として早番、日勤、遅番と全員が評価表に記入し、ケアプランの短期目標が行えているかが「○」「×」で一目瞭然です。月1回のモニタリングを実践し、また異変には速やかにプランを書き換えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の担当者がおり、日々の様子を職員間で情報交換し、サマリーや連絡ノートなどに記入している。また、カンファレンスで話し合い、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの変化や状況の把握と、その時々ニーズに対応して、本人が居心地よく生活できるように柔軟な支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や地域のボランティアと連絡を取り合い、生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診支援をしている方もいる。また、納得が得られた方は協力医療機関に受診や往診支援をしており、受診内容は申し送りノートに記入している。	かかりつけ医を継続している人は3割程で、協力医は職員が通院同行しています。医療費のことから「かかりつけ医に戻したい」という家族の意向を受入れたところ、受診の付き添いで過ごす時間が増え、「かえってよかった」というケースもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、24時間体制で連絡がとれ、気づいたことや入居者の体調の変化など、随時、連絡・報告・相談ができ、適切な対応が取れる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、今までの情報を医療機関に説明し、情報交換を行い、早期に退院できるように連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族から意向を聞き、主治医と相談をし、必要な関係者と話し合いを持ち、方針を決め支援に取り組んでいる。	看護師資格をもつホーム長が日常的に専門的なやりとりがかかりつけ医とできていることが覗えますが、重度化に際しては移設先を紹介しており現在は看取りをおこなっていません。医療的措置が24時間必要な場合には無理であると予め家族に伝えてあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが目の届くところにあり、すぐ確認できるようになっている。また、定期的な研修や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルがあり、防災計画を立て、日中や夜間の避難訓練を行っており、緊急連絡網の伝達訓練や応急処置の訓練も行っている。また、運営推進会議でも話し合っており、消防署の方にも協力して頂いている。	防災訓練は法令で定めた以上の回数を行っており、運営推進会議に兼ねた折には非常用食品を試食して「いい勉強になった」との感想をもらっています。衣服を包帯代わりとしたり、竹竿で担架をつくることも訓練後に講習して応急手当の方法も順次学んでいます。備蓄は3日分あります。	衣服を包帯代わりとすることは有事に役立つことのため、地域を巻き込んだ講習会に発展することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やカンファレンスでも話し合い、一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーが守られるように意識向上に努めている。また、言動に気付きがあれば、その場で注意しあっている。	身体拘束排除と同じく大切なこととして職員が顔を合わせるときを学習機会とし、例えば夜間帯で使うポータブルトイレを目にした本人以外の人が「あれ何？」と不信に思ってしまったケースでは、日中は居室クローゼットのカーテンで隠すようにしたとのが日々おこなわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを聞き、少しでも多く会話を持つように支援し、毎日を楽しみ暮らすことが出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがどのような生活を望んでいるのかを把握し、趣味や希望に沿って、出来るだけ生活を楽しめるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服や、その日の気分により、自分で選んで着ることが出来るように支援している。また、1ヶ月に1回、訪問美容師さんが来設され、希望に応じカットやカラーをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る準備や片付けは、一緒に行い、盛り付けを考え、楽しんでもらえるように支援している。また、事業所の畑と一緒にとりに行き、季節感が味わえるように支援している。	平日は調理品が配達され、日曜日は食材のみ届くため職員がメニューに即して調理しています。嗜好調査で「パンが食べたい」という声が多かったため日曜日の昼食にサンドウィッチで反映させたこともあります。おやつは手作りとし販の菓子を交互に提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量をチェック表に記入し、一人ひとりの状態や必要により、食事形態の変更やロミ剤を使用し、硬さの調整をしている。また、不足時には栄養補助食品にて補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、個々に応じた声かけ、誘導を行い、うがいや歯磨き、入れ歯の洗浄を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状態を把握し、一人ひとりに応じたパターンで声かけや誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	大半の利用者がリハビリパンツのため排泄表を用いてのトイレ誘導がおこなわれ、自立が促された結果布パンツに変更する人もいます。食事では水分をしっかり摂ることを職員に奨励し、夜間にもお茶を入れたペットボトルを居室に持ち込むことを支援しての便秘対策がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の把握と、水分補給に注意し、体を動かす機会を作り対応している。また、朝はトイレに座る習慣をつけるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、本人の状況により変更している。また、一人ひとりの希望により、一人で入りたい方は一人で入ることができるように支援を行っている。	一人当たり週3回ほどの頻度で使う浴槽は複数で入れるように大きめにつくられ、女性は仲の良い人同士で浸かっています。湯は流したままで浴室の温度を一定に保つことにもつながっています。トイレの向かいに脱衣室が配されているため、万が一排泄時に汚れがあっても対応がスムーズです。	窓がない設計のため、換気ならびに黴の発生、ひいては感染症などの対策についてあらためて見直すことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は声かけにて活動を促し、夜間眠れるように支援している。また、状況に応じて休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の使用と、変更時は申し送りノートで、服薬についての理解が出来るように努め、症状の観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、声かけを行い、役割を持っていただいている。また、イベント等で気分転換や、楽しみ場となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き、散歩や買い物が出来るように支援している。また、家族と連絡を取り合い、外食やドライブ・外出支援をしている。	行事と回転寿司で年6回外出イベントが計画運用され、花川の薔薇園、小國神社、紅葉狩り、桜見物を兼ねて館山寺のニュー泉館に出向き食事をするとコースが定着しています。各ユニットから3~4名、計13名での小グループが常ですが、60人乗りのバスを借りることもあります。	家族アンケートでは他の項目と比べ外出についての評価が低くなっています。年6回のイベント的な外出は継続実施されていますので、個別の日常的な外出支援が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持して買い物ができる方には、職員が付き添ったり、ご家族に協力してもらい、外出時に希望のものが買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人やご家族の希望により、手紙のやり取りや電話支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や壁には行事の写真・習字等を掲示し、その季節に応じた花を飾り、温度調節を行い居心地よく過ごすことができるように支援している。また、夏には居間の窓にレースのグリーンカーテンを作り季節感を味わえるようにしている。	出入口周辺にヒメハギが活けられ、壁には朝顔や葡萄の貼り絵が掲示され、時節を味わうことができます。テレビが見えるようにとテーブルの配置が考慮され、動線に合わせてソファの置き方が工夫されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビとソファがあり、テレビを見たり新聞を読んだり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や、思い出のある物を持ち込み、居心地よく生活できるように努めている。	三面鏡、仏壇、筆筒といった使い慣れた家具や調度品だけでなく、花瓶に活けられた花々が目を惹きます。陶器ということもあり何回も割ってしまっていますが華道師範だった本人の意向に副って買い替えを手伝っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態により、居室のドアに目印をつけたり、テーブルの座席の位置を考え、出来るだけ安全な生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル 有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家(3号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には茶畑が広がり、ホーム敷地内の菜園では季節の野菜が収穫され、四季折々の草花を身近に楽しむことができる。
平屋建てのホームでは、山小屋風の吹き抜けのあるリビングに集い、ボランティアの催事やカラオケ・習字のサークルは自由参加となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長屋風な趣を残しつつ1号館から3号館まで互いが顔を合わせて生活できるよう工夫され、敷地内に設えたひまわり畑は車いすの道も通され、至るところに配慮がみえます。シニアクラブ悠悠の会や民生委員を通じて頻回なボランティア訪問が叶い、クラブの皆さんとは一緒に庭でグランドゴルフに興じることもあり、地域資源の往来が豊かなため「いつイベントをやるのか」「呼んでほしい」という声が家族からも挙がるほどです。週1回のカンファレンスで解決に至らない場合は3ユニット全職員が集う毎月の職員会議にかけ総意を以てあたることが慣行され、ユニット単位の良さを発揮しつつも三位一体の結束力に秀でていきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所の目的つく所に掲示し、その理念を共有し実践に心がけている。	理念を易しく解いた「一緒に 楽しく のんびりと」が掲示され、3ユニット全職員が集う職員会議にて話し合うことが繰り返されています。訴えが絶えなかった2号館の利用者が1号館のマッサージ機を使用することで安定したとの例も、議題に挙がり総意を以てあつたものです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回してもらったり、地域の行事に参加させてもらっている。また、事業所の行事には、悠悠会(シニアクラブ)の方に参加して頂いたり交流を持っている。	シニアクラブ悠悠会や民生委員の交流ではハーモニカやマジックのボランティア訪問が叶い、クラブの皆さんとは一葉の家の庭でグランドゴルフに興じることもあります。根洗神社秋の大祭案内も届き、移動図書館や犬の散歩での立ち寄りや猫の訪問もあり、往来が豊かです。	交流が盛んですが幼児・生徒との出会いは少ないため、異世代交流も増えていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受け入れや、悠悠会、ボランティアの方々等の協力により、交流を持ち理解や支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施しており、事業所の取り組み状況や報告・意見交換を行っている。また、職員会議にて話し合いサービス向上に活かしている。	行政や地域からの出席者を得て、日頃の様子をデジタル映像で鑑賞してもらう時間も設定しています。敷地で採れた梅で作ったジュースを勧めたのや和気藹々のなかでは法改正の質問も気軽にでき、また「居間での過ごし方」を協議した延長にちぎり絵に加わってもらったこともあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、介護相談員が月1回来設されており協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センター、市役所双方から生活困窮者や他の施設では受け入れ難い症状の入居相談が入り、実際受け入れた例もあります。そのため長寿保険課だけでなく社会福祉課との付き合いも増え、市からの問い合わせ電話は月に2~3件入っています。	浜松市から認知症サポーター養成講座開催の提案をされているとのことですので、ぜひ実現を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないケアについて学んでおり、見守りを重視したケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を備えて職員会議で学ぶ時間を設けるとともに、北区主催の事業者情報交換会においても広い視野での事例検討がおこなわれています。職員の口からついできてしまう「やって」には管理者が「やってくださいね」と言い直しを都度注意して是正を進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修や講習会において学んでおり、実践に活かした虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学んでいる。必要により話し合いを持ち、支援している。また、成年後見制度を利用している入居者の支援を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約文書は必ず説明を行い、不安や疑問点・生活に対する要求等を聞き理解・納得された上で契約できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも話し合いを持っている。また、苦情や意見箱を設けており、利用者や家族から意見や要望が聞かれた場合職員会議等で話し合いを持ち、改善できるように取り組んでいる。	「面会で届くことは職員から管理者にあげられ、事の大きさによっては苦情・相談内容記録票に記載する」、解決への仕組みが確立しています。例えば「友人が訪れ、菓子やバナナを渡して本人が食べてしまい糖尿病の悪化が心配」との声には職員が間に入り状況を改善させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見や要望を聞き、改善できるように話し合いを持っている。	上位者との面談は1対1だけでなく、必要に応じて2対1としていかに吸い上げるかが図られるなか、「玄関先のベンチを増やしてほしい」との利用者目線のものだけでなく、消毒の徹底につながった感染症対策への進言もみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働き続けられるように個々に応じた勤務調整や、研修への参加、勉強会を行い向上心がもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修への参加を促したり、定期的な事業所の研修を行っており、勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総会や研修・地域情報交流会の参加を通して交流を計り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に思っていることや要望に耳を傾け、納得できるように本人と話し合いを持ち、安心して過ごすことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを持ち、困っていることや要望を聞き、希望は出来るだけ沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から困っていることや、必要としている支援を把握し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における、掃除・洗濯・食事の準備等、できる事は一緒に行っている。本人の思いや希望など、何でも言えるような共に暮らしていく関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の気持ちを十分理解し、生活状況の報告を行い、話し合いを持ち、関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの方に来ていただいたり、一緒に外出することもある。また、希望や本人の状態にあわせ電話支援をしている。	利用者が直接本や紙芝居を借りて、時には職員が読み聞かせをおこなう移動図書館の訪問は、心待ちにする馴染みの一つになっています。これまで友人と連れ立って外食していた人は、最近ではお店ではなく友人宅で食事を済ませてくることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流出来るように、イベント等の企画、ゲームやカラオケに参加を促したり、会話の時間を作ったりしている。日常生活における掃除や洗濯を一緒に行い、関わりが持てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要により電話・訪問・面会に行ったり、相談はいつでも受けるよう支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望や願いを聞き、困難な場合には、言葉や行動にて理解し、把握するように努めている。	浴槽や居間、居室と、寛げる空間は人それぞれなので、その人がリラックスできる時間や場所を探して聴いています。聴き取ったことや行動から察知したことは申し送りノートに記載することで共有できていますが、大半は話を聴くことで落ち着いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活状況を、ご家族、ご本人から聞き現在の生活を維持出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、週1回のカンファレンスにおいて情報交換を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの暮しや課題、希望、ケアのあり方等を御本人やご家族と話し合い、カンファレンスにて検討し、介護計画を作成している。	計画作成担当者は各号館に1名ずつ配置されています。毎日「介護記録」として早番、日勤、遅番と全員が評価表に記入し、ケアプランの短期目標が行えているかが「○」「×」で一目瞭然です。月1回のモニタリングを実践し、また異変には速やかにプランを書き換えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や現状をカンファレンスにて話し合い、個別の記録を作成し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活状態の把握やその時々々のニーズに対応出来る様に柔軟な支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や地域のボランティアの方と連絡を取り合い、御本人の暮らしが豊かで、楽しむことができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の医療支援や、家族本人の希望を聞き、協力医療機関に受診、往診の支援をしている	かかりつけ医を継続している人は3割程で、協力医は職員が通院同行しています。医療費のことから「かかりつけ医に戻りたい」という家族の意向を受入れたところ、受診の付き添いで過ごす時間が増え、「かえってよかった」というケースもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、24時間体制で連絡を取ることができる。また、必要により、指示や相談が出来、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、御本人の生活状況、病状など、経過を十分に、説明をして、早期退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、家族、本人から十分の意見を聞き、主治医との連携をとり、必要な支援をしている。	看護師資格をもつホーム長が日常的に専門的なやりとりがかかりつけ医とできていることが覗えますが、重度化に際しては移設先を紹介しており現在は看取りをおこなっていません。医療的措置が24時間必要な場合には無理であると予め家族に伝えてあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加したり、看護師の指導を受け、日々話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の取り扱いなどの指導を受けている。また、シニアクラブや地域の方にも参加していただいている。	防災訓練は法令で定めた以上の回数を行っており、運営推進会議に兼ねた折には非常用食品を試食して「いい勉強になった」との感想をもらっています。衣服を包帯代わりとしたり、竹竿で担架をつくることも訓練後に講習して応急手当の方法も順次学んでいます。備蓄は3日分あります。	衣服を包帯代わりとすることは有事に役立つことのため、地域を巻き込んだ講習会に発展することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やカンファレンスでも話し合い、声掛け時等、プライバシーを損ねない対応を心掛け、支援をしている。	身体拘束排除と同じく大切なこととして職員が顔を合わせるときを学習機会とし、例えば夜間帯で使うポータブルトイレを目にした本人以外の方が「あれ何？」と不信に思ってしまったケースでは、日中は居室クローゼットのカーテンで隠すようにしたとことが日々おこなわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に応じ声かけを行い、本人の希望を聞き、気持ち良く生活が、出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など、決まった時間以外は、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選んで着たり、美容院に行くことができるように支援している。また、美容院に行くことができない利用者には、訪問美容院の方が月1回、来設されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に食材を一緒に取りに行き、食材を切ったり、お皿を並べたり、片付けを一緒に行って頂いている。	平日は調理品が配達され、日曜日は食材のみ届くため職員がメニューに即して調理しています。嗜好調査で「パンが食べたい」という声が多かったので日曜日の昼食にサンドウィッチで反映させたこともあります。おやつは手作りとし販の菓子を交互に提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じ、食事形態を考え、食事、水分摂取量を記録し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力に応じた歯磨き・うがい・入れ歯の洗浄等、個々に応じた声かけや誘導の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてパターンを確認し、個々の状態に応じた声掛け誘導を行い、トイレで排泄できるように支援をしている。	大半の利用者がリハビリパンツのためトイレ誘導がおこなわれ、自立が促された結果布パンツに変更する人もいます。食事では水分をしっかり摂ることを職員に奨励し、夜間にもお茶を入れたペットボトルを居室に持ち込むことを支援しての便秘対策がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の記録にてパターンを把握し、食後にトイレ誘導を促している。また、ラジオ体操や散歩などの運動も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間が定まっているが、本人の健康状態により、変更して、個々にゆっくりと、入浴ができるように支援をしている。	一人当たり週3回ほどの頻度で使う浴槽は複数で入れるように大きめにつくられ、女性は仲の良い人同士で浸かっています。湯は流したままで浴室の温度を一定に保つことにもつながっています。トイレの向かいに脱衣室が配されているため、万が一排泄時に汚れがあっても対応がスムーズです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、温度調節を行い、快適に寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の処方シートがあり、変更時には申し送りに記載して、服薬支援と変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日生活の中で、掃除、洗濯など、役割がもてるように心がけ、ぬりえ・カラオケなど、楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望によって、家族や友人との外出散歩、買い物などに出掛けられるように支援している。	行事と回転寿司で年6回外出イベントが計画運用され、花川の薔薇園、小國神社、紅葉狩り、桜見物を兼ねて館山寺のニュー泉館に出向き食事をするとコースが定着しています。各ユニットから3～4名、計13名での小グループが常ですが、60人乗りのバスを借りることもあります。	家族アンケートでは他の項目と比べ外出についての評価が低くなっています。年6回のイベント的な外出は継続実施されていますので、個別の日常的な外出支援が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所得して、買い物ができる方には付き添い、力に応じた買い物ができるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望により、手紙のやりとりや電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごす事が出来るように、ホーム内の温度調整などを行い、居間には行事等の写真を提示し、季節に応じた花などを飾り、穏やかに過ごせるように支援している。	ふんだんな採光が空間を明るくし、また広い印象を与えています。手作りの貼り絵のカレンダーに毎日の関わりの豊潤さを感じることができました。職員会議での協議からハイター消毒をはじめ、週に数回利用者も手伝っての清掃がこなわれています(全館共通)。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には大きなテレビやソファがあり、テレビ観賞や新聞を読んだり、思いおもいに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、使い慣れた家具や生活用品などを持ち込み、居心地よく生活が出来るように努めている。	エアコン、カーテン、洗面所、ベッド、カーテン式のクローゼットと、ほぼ生活用品は備えられ持ち込みも少ない中、家族と花火を愉しんだ笑顔の写真が掲示されているのが印象的でした。居室で寛ぐより共有スペースで過ごしたい人が多いことを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立生活が送れるように、廊下などは手すりや目印などを備え付け、安全な生活が送れるように努めている。		